

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2016年10月号 通巻94号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2016

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンが増えた理由は？

雑食だからでも子だくさんだからでもない

	出産仔数	食性(すべて雑食)
タヌキ	4～8頭	昆虫、果実が主食。他にもカエルなど小動物。
ハクビシン	1～4頭	果実が大好物。昆虫、小動物。
アライグマ	1～7頭	果実、昆虫。魚やカニなど水生動物。鳥の卵。北海道ではトウモロコシ被害で知られている。
キツネ	1～13頭	ネズミ類、ウサギ類、昆虫など。果実。

参考文献：世界の動物 分類と飼育 2 食肉目(発行：財団法人東京動物園協会、1991年)。

2016年9月26日放映のNHK総合テレビ「クローズアップ現代+」ハクビシンやアライグマが増えた理由として専門家が「雑食」「子だくさん」を挙げていました。私に言わせればそんなことは増加の理由にはなりません。

「雑食」の内容はさまざま

「雑食」というと「何でも食べる」という意味だと思っている人は多いようですが、そうではありません。雑食とは動物性のもの、植物性のもの両方を食べることを意味します。タヌキやハクビシンなどは雑食ですが、食物の内容は動物によって、そして生活環境によっても違ってきます。なんでもかんでも手当たり次第に食べているわけではありません。

ハクビシンは東京都23区内では果実にかなり依存しており、ほぼ植物食と言えます。キツネは動物食に偏っていますが、それでも雑食に分類されます。同じ雑食でもハクビシンは都会に適應でき、キツネにはできま

せんでした。「雑食＝増える」という単純なものではなく、食べているものを詳細に検討しなければ真相はわからないものです。

子どもが多くても増えない

出産の頭数も上の表に示した通りで、ハクビシンはむしろ少なめであることがわかります。ハクビシンは年2回出産するという記述もありますが、私はこれには懐疑的です。実際に年2回出産した事例があるのでしょうか、自然環境下ではよほど条件が良くなければ難しいでしょうし、タイミング良く妊娠できるわけでもありません。

「子どもが多い＝増える」ならばタヌキやキツネの方がもっと増えなければならぬはずですが実際はそうなっていません。ハクビシンが増えた理由はこれではないのです。

ではハクビシンなどが増えた本当の理由は何なのでしょう。これには複数の原因がからんでいると考えられ、正直に言うと「よくわからな

い」のです。それでも原因を挙げるならば「食べ物」「巣になる場所」があるから、と言えます。動物にはそれぞれ好みの食べ物がありますから、それが十分ないと定住はできません。また、出産し、子どもを育てるための場所にも好みがあり、どこでもできるものではありません。この両方がそろわないと安定して生存するのは難しいと言えます。

都会では「食べ物」も「巣になる場所」も十分にありとは言えません。そのため、ある程度以上に生息数が増えることはないだろうと予測されます。ハクビシンもアライグマも限度無く増え続けることはあり得ません。また、増加させないためのヒントもここにあるのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>